

製造業・サービス業は足踏み状態にあるものの 全産業業況はゆるやかに持ち直しの動きを示す

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成28年10月～12月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率72.5%

【主要な表現について】 ○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲23.2で前回(H28年7月～9月)より2.7ポイント改善。今回は建設業・卸売業・小売業が改善しました。経営上の問題点として製造業では、生産設備の不足・老朽化。サービス業では、需要の停滞と利用者ニーズの変化への対応があげられました。

全産業売上高の動向(表2)：前回(H28年7月～9月)より全体で4.8ポイント悪化しました。

全産業資金繰りの動向(表3)：資金繰りは前回(H28年7月～9月)のDI値から0.6ポイント改善しました。

全産業採算の動向(表4)：前回(H28年7月～9月)より全体で2ポイント悪化しました。

全産業雇用人員の動向(表5)：前回(H28年7月～9月)のDI値から4.4ポイント改善しました。

